

組織的な大学院教育改革推進プログラム（旧：大学院教育改革支援プログラム）
平成 20 年度採択

「女性の高度な職業能力を開発する実践的教育」

平成 22 年度

前期課程ガイダンス資料

奈良女子大学大学院
人間文化研究科

<2010年9月版>

博士前期課程

国際社会文化学専攻

人間行動学専攻

住環境学専攻

生活文化学専攻

目次

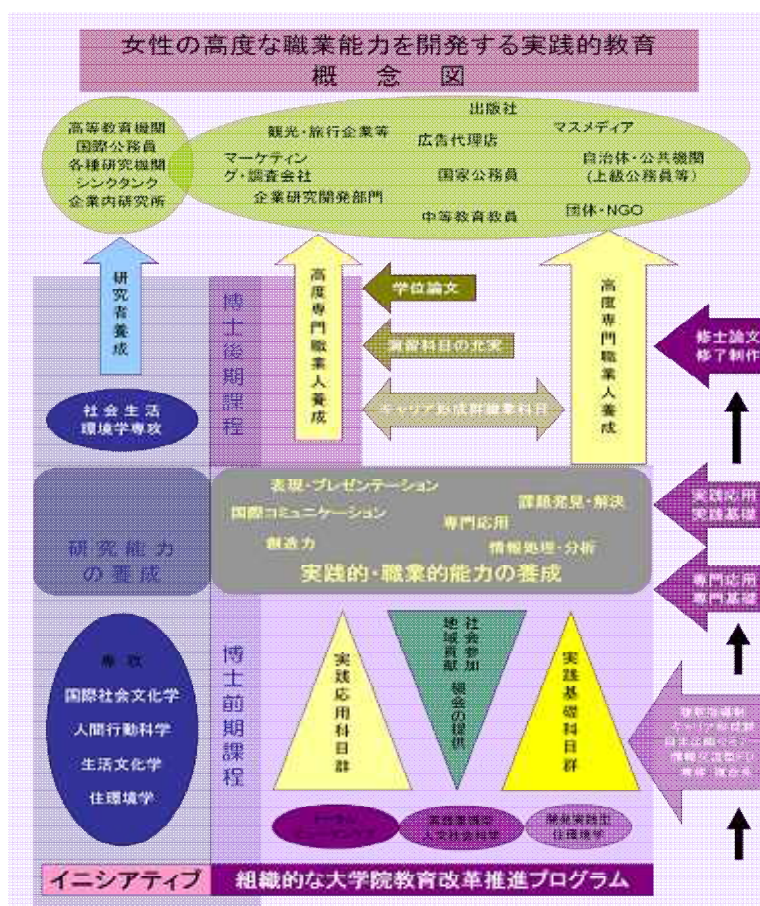
はじめに	1
本プログラムの目的	2
実施事業の概要 自主活動支援事業・広報活動	3
カリキュラムと授業	4
関連する授業一覧	5
授業情報	6
学習支援体制と連絡先	7

はじめに



プログラム代表

出田和久



本プログラムは「大学院教育振興施策要綱」（平成 18 年 3 月 30 日）の策定をうけてはじまった「大学院教育改革支援プログラム」として平成 20 年度に採択されたもので、高度専門職業人の育成に資するように従来の教育カリキュラムに実習・実践的な側面を強化して実施するものです。本学大学院は研究者および高度専門職業人の育成を目指しており、既に研究者養成に重点を置いた教育プログラムである「生活環境の課題発見・解決型女性研究者養成」（平成 17 年度「魅力ある大学院教育」イニシアティブに採択）を実施しています。今回、本プログラムが採択されたことによって、高度専門職業人の育成についてもより体系的な教育プログラムが実施できることとなったといえるでしょう。

現代社会は技術革新が急速に進展する環境変化の激しい時代なので、一度獲得した新しい知識や技術も直ぐに陳腐化してしまいがちです。したがって、個々の具体的な技術やスキルの獲得は必要なことではありますが、より一層求められることは、具体的な技術やスキルに接し、その経験を基礎として、新しい

課題に直面した時に、その解決のためにはどのような技術・スキルが必要であり、それをどのように応用するかを実践的に考える力（専門応用能力）を培うことといえるでしょう。そのために、調査やフィールドワーク、インターンシップ実習をカリキュラムに取り入れ、情報処理・分析や制作、企画・マネジメント、表現・プレゼンテーション等の能力、およびそれらを発信するコミュニケーション能力などを養成しようというものです。具体的には、従来の幅広い専門的知識と視野を獲得する教育のプログラムに、文化財の AV 機器による撮影・編集・記録のためのスキルを学んだり、身体や心の機能をトータルにとらえ評価するための人体機能計測をおこなったり、都市・集落・住居の環境を総合的に解析するフィールドサーベイを実施したり、様々な実習・実践的要素を加味したプログラムを加えて展開するものです。本プログラムを履修した修了生が、社会においてその力を存分に発揮し、真の男女共同参画社会の実現に貢献してくれることと期待しています。

本プログラムの目的

このプログラムでは、特に高度専門職業人の養成を念頭に、主として博士前期課程の教育の実質化を図るために、従来なかった実践的な授業科目をカリキュラムに取り入れ、大学院生の皆さんのキャリア形成を支援します。

総合的な実践的科目群を展開！

本プログラムの基本的な特徴は、歴史的に培われた本学の総合力を生かし、社会・文化・人間・環境・生活に関する専門的教育研究に加え、実習・実践的な側面を強化したカリキュラムを編成しています。

各専門領域で「実践基礎群」・「実践応用群」科目を展開し、従来の演習科目に加え調査やフィールドワークを基礎に、情報処理・分析や制作、企画・マネジメント、表現・プレゼンテーション等の能力、およびそれらを発信するコミュニケーション能力などを養成します。

具体的で関心に密着した実践基礎群科目！

限定された課題や能力に関わる、比較的短期で展開する実践基礎群科目を強化・新設し、技術・技能の開発・伝達をめざし、学生の実践的な関心に応えます。これらの授業は、専任教員のみでなく、専門的な職域で深い知識や豊かな経験と能力を発揮している社会人や本研究科修了者をゲストスピーカーとして招くなど、多彩に展開されます。

専門的能力を磨き上げる実践応用群科目！

従来の演習科目の内容を充実させたり、あるいは新設したりして実践応用群科目を作り、1年次の後半から2年次にかけての時期を中心に密度の濃い実践的学習を行います。この科目群では、現地調査やフィールドワーク、制作実習など、座学では得られない実践的かつ専門的能力の向上をめざします。

イニシアティブ事業を継承し、研究者にも！

高度な専門的知識を提供する現在の専門基礎、専門応用の2つの科目群について各々の授業の改善を図ります。また、主として研究者養成を念頭に置いた「魅力ある大学院教育」イニシアティブ「生活環境の課題発見・解決型女性研究者養成」事業を、高度な専門的能力の育成を図る方向で継承し、マネジメント能力を養成する研究マネジメント群科目や自覚的にキャリア形成を図るためのキャリア形成群科目を充実させます。

学生の意欲的な自主活動をバックアップ！

さらに、自主的な研究会・セミナーや本学の地域貢献事業、たとえば地域女性リーダー育成事業などの企画と運営に参加する機会を設けることによって、生きた能力を身に着けることをめざします。各種の授業や機会を系統的に活用することで、着想と提案の意欲と能力を備え、実践型の企画・マネジメント能力等に秀でる女性を社会に送り出します。

学生による自主的なセミナー開催を人的・経済的にバックアップし、学生個人の口頭発表や作品の発表を経済的に支援します。

評価方法の改善

この学習・研究の展開から従来の修士論文とは異なるタイプの成果が出てきた場合、それを修了研究の一部、あるいはそれに替わるものとして認め、修了認定における評価対象とします。



インターンシップ専門実習(国際社会)：H21年度

* 博士後期課程について *

社会生活環境学専攻は、研究者及び高度専門職業人の養成を目的としており、上記プログラムを経て進学した学生について、より高度な実践的能力を開発します。社会のニーズに直結する実践的研究課題を追求する研究者や、専門知識を背景に組織を指揮・運営する女性リーダーをめざすよう促します。

このように、現地実習、フィールドワーク、インターンシップ、キャリア形成科目、及び住環境に関する演習科目などにより、専門応用能力、課題発見・解決能力、総合的判断力、の伸長へとつながる、受動型から能動型へと変貌を促す女性高度専門職業人育成プログラムを構築します。とりわけ女子大学という教育環境を活かし、実践的課題を志向する女性能力・個性をのびのびと発展させ、本教育プログラムにおいてその個の力を社会的貢献に資する段階へと高めていきます。

実施事業の概要

自主活動支援事業

院生が主催する研究会やセミナーの開催、また研究成果の公開について支援を行っています。

院生自主企画支援

関心を持つテーマについて学生が研究会やセミナーを開催するにあたり、講師の斡旋や交渉、運営などについてのアドバイスや、招聘する講師の方への謝金・旅費（近畿圏以外の場合について1泊分の宿泊費）の支援を行います。

平成 22 年度後期分を募集します

：募集期間： 2010 年 10 月 1 日(金)～10 月 18 日(月) 17:00 迄

：応募方法：

募集要項をよく確認の上、企画名称、企画者名と所属、企画概要（目的、開催予定日及び講師予定者など） 予算計画などの必要事項を規定の応募書式に記入して、大学院 GP(人社系)事務局（新 E 棟 154 室）に期日内に提出してください。

募集要項は本プログラム HP よりダウンロードするか、事務局までお問い合わせください。

*平成 20 年度支援実績：4 件 / 平成 21 年度支援実績：7 件 / 平成 22 年度前期募集実績：4 件

研究・活動成果公開のための研究集会参加助成

院生が研究集会・講演会・大会等で研究成果を発表する際の参加費を援助します。

平成 22 年度分の募集は終了しました

*平成 20 年度助成実績：論文掲載助成 4 件 / 研究集会参加助成 1 件

*平成 21 年度助成実績：研究集会参加助成 12 件

*平成 22 年度採択件数：研究集会参加助成 20 件

広報活動

大学院 GP(人社系)ホームページを開設しています

<http://www.nara-wu.ac.jp/grad-GP-life/>

プログラムの活動、院生自主企画、研究成果公開助成などの情報を公開していきます。

メールニュースの配信

ホームページと同様に TA の募集や院生自主企画、研究成果公開助成などの情報をお届けします。また自主企画や授業の報告なども掲載します。

*メールニュースの配信は月 1 回（15 日頃）です。配信をご希望の方は、タイトルに「GP メールニュース配信希望」、本文に「名前、所属、配信先メールアドレス」をご記入の上、メールにて gp-zins@cc.nara-wu.ac.jp までお送りください。次回分より配信させていただきます。

ニュースレターの発行

ホームページ、メールニュースと同様に、院生自主企画や授業報告などの情報を掲載していきます。発行は年 4 回程度の予定です。

バックナンバーは事務局で手に入れることができます。

カリキュラムと授業

科目群とは

本研究科は、前期・後期両課程を通して、男女共同参画社会をリードする研究者および高度専門職業人の養成を目的として掲げています。このプログラムに参加する5専攻のカリキュラムは、この目的を達成するために下記のような科目群を設定し、キャリア形成を念頭においた科目選択を支援しています。

研究マネジメント群およびキャリア形成群

研究者あるいは高度専門職業人としての研究推進とキャリア形成に役立つ授業群です。2009年度・2010年度入学者は二つの群から計2単位以上を、2008年度以前の入学者はそれぞれから1単位以上を、選んで受講してください。前期各専攻では、一部のインターンシップ専門実習など特別に相談の必要な場合を除き、専攻を超えて受講できます。

専門基礎科目群および専門応用科目群

各専攻において大学院修了者にふさわしい一般的能力の養成をめざす授業群です。

実践基礎科目群および実践応用科目群

高度専門職業人としてのキャリア形成のために、実践的に役立つスキルの修得をめざして開設された授業群です。

注意 インターンシップ専門実習および専門・実践の4科目群の各科目を、専攻を超えて履修する場合、指導教員および授業担当教員にご相談ください。

修士論文等の作成

修論のためには、研究結果を論文その他の形にまとめ、審査を受けることが必要です。学術論文に換え、あるいはそれに併せてなんらかの制作物等を提出する場合には、あらかじめ指導教員に相談してください。

	博士前期課程		修了必要単位数
研究マネジメント科目群	合計2単位以上	合計24単位以上 (住環境学専攻は20単位以上)	合計 3 2 単 位 以 上
キャリア形成科目群			
専門基礎科目群			
専門応用科目群			
実践基礎科目群			
実践応用科目群	合計20単位以上 (住環境学専攻は18単位以上)		
論文等作成	8単位(住環境学専攻は12単位)		

その他履修の仕方

*履修計画のたて方について

専攻毎に履修モデルを作成しています。ただしどの専攻も、分野が多岐にわたるため、あらゆるケースを網羅しているわけではありません。大学院進学のための目的と将来の進路設計を明確にして、指導教員のアドバイスを受けながら履修計画を立ててください。

*学部授業の受講について

学部のキャリア形成科目(教職科目も含まれます)は、受講制限を超えて履修できます(修了要件単位にはなりません)。必要なものを計画的に履修してください。

*授業への参加について

大学院では、どの授業でも学生の主体的な参加を前提にしています。インターンシップなど学外の社会人の方と接触する授業では学生としての謙虚な態度に配慮しつつ、積極的な学習活動を行ってください。

*カリキュラムや受講についての相談

社会人としての制約による必修授業の受講方法その他履修の仕方について、指導教員、授業担当教員の他、専攻の助教等にもご相談ください。

プログラムの改善について

本プログラムは、学生の皆さんのニーズに応えるために機動的に改善を図ります。どんな相談でも、プログラム全体の改善のために役立つので、遠慮なく適当な教員、特任助教、あるいは本プログラム担当の教務補佐(久保：文学系担当、道端：生環系担当、事務局常駐)にお伝えください。

関連する授業一覧

研究マネジメント群およびキャリア形成群

	群	科目名称	単位	開講期	時間割	備考
博士前期課程	研究マネジメント群	専門応用英語	1	前期	不定期	
		専門応用英語	1	後期	不定期	
		プレゼンテーション演習	1	前期	火7・8	
		プレゼンテーション演習	1	後期	火7・8	
	キャリア形成群	女性専門職キャリア論	1	前期	集中	
		女性研究者キャリア論	1	前期	不定期	
		インターンシップ実習	1	前期	金7・8	企業訪問は不定期
		インターンシップ専門実習	1	不定期	集中	人間行動科学
		インターンシップ専門実習	1	前期	不定期	国際社会文化学(奈文研)
		インターンシップ専門実習	1	前・後期	不定期	国際社会文化学(マスコミ)
インターンシップ専門実習	1	不定期	集中	生活文化学(国際教育交流団体)		

博士後期課程	研究マネジメント群	研究交流英語	1	後期	不定期	
		研究プロジェクト演習	1	不定期		
		研究プロポーザル演習	1	後期	不定期	
	キャリア形成群	グローバル社会と女性の専門性	1	前期	集中	
		インストラクション法実習	1	不定期	集中	

各専攻授業一覧

実践基礎・実践応用群の一覧です。

専門基礎・専門応用群についてはシラバスが CAMPUS LIFE をご覧ください。

専攻	科目名称	単位	科目群	開講期	時間割	備考
国際社会文化学専攻	文化史総合演習	2	実践応用	前期	水5・6	
	Web情報実習	1	実践応用	後期	水5・6	
	地域環境調査法	2	実践基礎	前期	不定期	
	GIS分析演習	2	実践基礎	後期	金3・4	
	地域・文化コンテンツ制作実習A	1	実践応用	前期	金9・10	
	地域・文化コンテンツ制作実習B	1	実践応用	後期	火9・10	
	実践スキルゼミナール(古文書調査実習A)	1	実践基礎	前期	月9・10	
	実践スキルゼミナール(コンテンツ公開実習)	1	実践基礎	後期	不定期	詳細未定
人間行動科学専攻	実践スキルゼミナール(スポーツ科学)	1	実践基礎	前期	水5・6	
	実践スキルゼミナール(心理学)	1	実践基礎	前期	木1-4	隔週
	実践スキルゼミナール(心理学)	1	実践基礎	後期	木1-4	隔週
	教育文化情報学実習	1	実践基礎	前期	木5・6	
	スポーツ情報学演習	2	実践基礎	後期	木5・6	
	認知技能論演習	2	実践応用	前期	火3・4	
	人体機能計測実習	1	実践応用	後期	集中	
	スポーツビジネスライアル演習	2	実践応用	後期	月7・8	
住環境学専攻	フィールドサーベイ	4	実践基礎	不定期	不定期	
	住環境設計特論	2	実践応用	後期	集中	
	住環境学実務実習	4	実践応用	不定期	不定期	
	住環境学インターンシップ	7	実践応用	不定期	不定期	
	住環境学インターンシップ	7	実践応用	不定期	不定期	
生活文化学専攻	企業文化論	2	実践応用	前期	月3・4	
	消費行動環境論演習	2	実践応用	前期	月5・6	
	比較生活人類学演習	2	実践基礎	後期	金3・4	

授業情報

初回ガイダンス等の案内です。よく読んで、間違えないようにしてください。

研究マネジメント群およびキャリア形成群

専門応用英語	
担当	増井正哉・関口正也(非常勤講師)
開講計画など	<p>後期集中 下記の日程で2日間実施します。グローバル化する社会の様々な場面(ビジネス、学術、調査、研究等)で必要とされる実践的な英語活用能力を講義とプレゼンテーションの演習を通じて習得します。</p> <p>第1回 10月23日(土) 9:00~16:10 教室はガイダンス時に伝えます。 英語を使うシチュエーション/英語文献を読む・活用する 個人演習(Summarizing and Paraphrasing) 良い英文ライティング・プレゼンテーションとは何か 英文のルール・書き方1/プレゼンテーション準備(演習:グループワーク)</p> <p>第2回 11月13日(土) 9:00~16:10 教室はガイダンス時に伝えます。 各グループによるプレゼンテーションとディスカッション・講評 時事英語のリスニング/英文のルール・書き方2 論文概要または企画書作成準備(過去に執筆した論文の概要作成を想定)</p>
初回ガイダンス	平成22年10月6日(水) 9:10時限 E218-2
連絡先	増井 mmasui@cc.nara-wu.ac.jp (*連絡はe-mailで)
連絡事項	原則として後期は人間行動科学専攻、住環境学専攻を対象としますが、前期に履修できなかった国際社会文化学専攻、生活文化学専攻も履修可能です。履修希望者は初回ガイダンスに出席すること。

プレゼンテーション演習	
担当	鍛冶幹雄
開講計画など	火曜日7・8時限(12月7日(火)から6回)
初回ガイダンス	
連絡先	鍛冶 mikio-kaji@cc.nara-wu.ac.jp 電話:20-3781
連絡事項	4月に前期分・後期分のオリエンテーションをまとめて行っているため、4月のオリエンテーションに参加していない学生は受講できません。 後期入学者で受講希望者がいれば、別途、鍛冶までご相談ください。

インターンシップ専門実習(国際社会)	
担当	内田忠賢
開講計画など	事前指導 インターン1日目(11月27日・土曜日・午前午後・大阪市内) 取材実習 インターン2日目(12月18日・土曜日・午前午後・大阪市内) 事後指導
初回ガイダンス	10月27日(水)12:30~12:50、N339室にて開催予定 *受講者は必ず出席すること
連絡先	内田忠賢(社会情報学) tuchida@cc.nara-wu.ac.jp
連絡事項	・インターン2日間、両日とも参加できる方のみ、登録して下さい(1日のみは不可)。 ・新聞、特に、朝日・毎日・読売の主要3紙を、図書館等で目を通すように心がけておくこと。 *ジャーナリズム系実習、特に、活字(新聞)メディア *マスコミ志望の方に、特に役立ちます。

専門基礎・専門応用科目群、実践基礎・実践応用科目群

実践スキルゼミナール(コンテンツ公開実習)	
担当	栗岡幹英・渡辺克典
開講計画など	授業は10月と12(ないし1)月の土日を使って2回に分けて行います。最初にWeb作成の基礎を学び、次の授業までに各自にデータを収集してもらって、授業でそれをファイルにし、サーバーにアップロードして公開します。初回の授業は、10月16-7日の予定で、後半については改めてご相談いたします。
初回ガイダンス	受講を希望される方は、10月5日(火)昼休み12:20にN339教室にお集まりください。この時間に都合が悪くて出席できない方は、履修登録後直ちにkurioka@cc.nara-wu.ac.jp宛にメールでご連絡くださるようお願いいたします。
連絡先	栗岡 kurioka@cc.nara-wu.ac.jp
連絡事項	

GIS分析演習	
担当	石崎研二
開講計画など	金曜日3・4時限
初回ガイダンス	10月1日(金)10:40～、N339
連絡先	石崎 i-kenji@cc.nara-wu.ac.jp
連絡事項	

人体機能計測実習	
担当	藤原素子
開講計画など	後期集中
初回ガイダンス	10月8日(金)3・4時限(10:40 - 12:10) N123(スポーツ科学共同研究室)
連絡先	藤原 motoko@cc.nara-wu.ac.jp (*連絡はe-mailで)
連絡事項	この授業では、身体運動時の機能についての計測法の理解と実習、またその応用についての討論を行います。集中形式で行いますが、日程は受講生と相談して決める予定ですので、受講希望者は初回ガイダンスに必ず出席して下さい。

学習支援体制と連絡先

特任助教

授業・学習のサポーターとして、各専攻に特任助教および教務補佐員を配置しています。
先生方の待機場所は各専攻で確認してください。

- ・前川佳代 (国際社会文化学)
- ・池田曜子 (人間行動科学)
- ・荻野隆子 (住環境学)
- ・野村理恵 (住環境学)

大学院 GP (人社系) 事務局

教務補佐員が常駐しています。
機材・図書の貸し出し、GP 関連事業の各種受付を行います。
また発行物のバックナンバーもこちらで閲覧できます。

開室時間 : 月～金、10:00～17:00 (12:00～13:00 は休憩)
電話 : 0742-20-3523 (内線)
メール : gp-zins@cc.nara-wu.ac.jp
HP : <http://www.nara-wu.ac.jp/grad-GP-life/>
教務補佐員 : 道端良子、久保美知子

機材・図書の貸し出しについて
事務局では機材・図書の貸し出しを行っています。
貸し出し期間は機材は1週間、図書は1カ月が基本です。

貸出可能機材

- ・ノートパソコン(A4、B5 サイズ)
 - ・プロジェクター
 - ・スクリーン
 - ・デジタルカメラ
 - ・デジタルビデオ
 - ・ポータブルMDレコーダー
 - ・ICレコーダー
 - ・卓上ベル
 - ・ストップウォッチ
 - ・延長コード
- *その他ご相談ください。

組織的な大学院教育改革推進プログラム

「女性の高度な職業能力を開発する実践的教育」ガイダンス資料

発行 代表 出田和久

発行日 2010年9月30日

作成 大学院 GP(人社系)事務局 (E154室、0742-20-3523)

